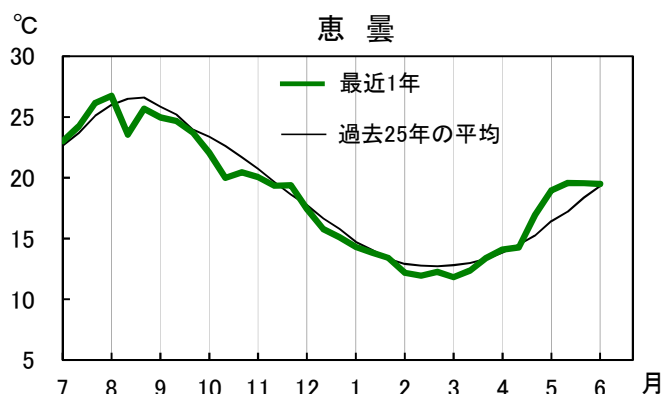
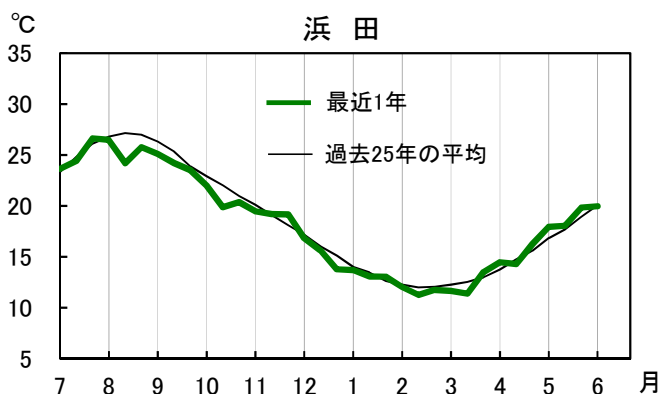




《5～6月の海況》

5月	月平均	平年差	評価
浜田	18.6℃	+0.7℃	やや高め
恵曇	19.5℃	+2.0℃	はなはだ高め

沿岸定地水温は、浜田地区では5月は上旬が「かなり高め」、中旬が「平年並み」、下旬は「かなり高め」でした。一方、恵曇地区では5月は上・中旬は「はなはだ高め」、下旬は「かなり高め」と高め傾向で推移しました。6月に入ると両地区とも上旬時点で「平年並み」で経過しています。



《5月の漁況》

【中型まき網漁業】

浜田地区ではマアジ、サバ類主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は平年並みとなりました。全漁獲量の内、マアジは117トンで平年の8割程度でしたが、サバ類は56トンで平年の3.1倍となりました。また、例年殆ど漁獲されないマイワシやカタクチイワシも4～13トン程度漁獲されました。西郷地区、浦郷地区ではマイワシ、マアジ主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は浦郷地区で平年並み、西郷地区で平年を下回りました。全漁獲量の内、主体であるマイワシは西郷で2,010トン、浦郷で786トンとそれぞれ平年並み、マアジは西郷で1,904トンと平年の1.8倍、浦郷で1,802トンと3.6倍の漁獲でした。

【イカ釣漁業】

浜田地区(属地5トン以上)ではスルメイカ(全体の96%)主体の漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は233kgで平年を上回りました。ケンサキイカは全体漁獲量の4%(約100kg)に留まり、本県沿岸への本格的な来遊はまだのようです。一方、西郷地区(属人5トン以上)ではスルメイカのみ漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は118kgで平年を上回りました。

【沖合底びき網漁業】

浜田港ではキダイ主体で、1統1航海当り漁獲量は9.8トンで平年を下回りました。キダイは平年の1.6倍、ケンサキイカは平年の1.2倍、カワハギ類は平年の20倍の水揚げがありましたが、ムシガレイは平年の4割、アナゴ・ハモ類は平年の4割、スルメイカとアンコウは平年の4割と低調でした。アカムツはほぼ平年並みの水揚げでした。

【小型底びき網漁業】

1隻1航海当りの漁獲量は、久手地区は551kgで平年並み、和江地区は618kgで平年を下回りました。両地区共に主力のソウハチが低調で、久手地区では平年の3割、和江地区では平年の5割でした。また、ニギスも久手地区で平年の2割、和江地区で7割でした。一方で、ハタハタは久手地区で平年の8.0倍、和江地区で平年の9.4倍の水揚げがありました。

【定置網漁業】

石見地区ではマアジ、ブリ主体の漁況で、1統当りではマアジが平年の3.4倍、ブリが1.2倍で全漁獲量の7割を占め、全統の総漁獲量は99トンで平年の1.7倍でした。出雲地区ではブリ、マアジ主体の漁況で、1統当りではマアジが平年並みだったものの、ブリは平年の6割に留まり、全統の総漁獲量は313トンで平年の9割でした。隠岐地区ではブリ主体の漁況で、1統当りではブリが平年の1.7倍で全漁獲量の6割を占め、その他の魚種も概ね平年並みか平年を上回り、全統の総漁獲量は170トンで平年の1.2倍でした。

【釣・縄】

出雲地区ではブリ、サワラ類が主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は35kgで平年を上回りました。石見地区ではブリ、ヒラマサが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は19kgで平年を下回りました。隠岐地区ではスルメイカ、カサゴ・メバル類が主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は26kgで平年を上回りました。

【平成 27 年 5 月の漁獲統計】

漁業種類	水揚港	主要魚種	総漁獲量			CPUE(1隻(統)1航海当り漁獲量)			漁模様
			漁獲量	前年比 %	平年比 %	漁獲量	前年比 %	平年比 %	
中型まき網	浜田	マアジ、サバ類	197トン	109%	108%	7.3トン	130%	97%	○
	西郷	マイワシ、マアジ	4,295トン	150%	76%	47.2トン	132%	67%	▲
	浦郷	マアジ	2,605トン	193%	107%	48.2トン	232%	96%	○
イカ釣り (5トン以上)	浜田	スルメイカ	2トン	96%	93%	233kg	125%	185%	◎
	西郷	スルメイカ	27トン	188%	240%	118kg	131%	141%	◎
沖合 底びき網	浜田	キダイ、カワハギ類、ムシガレイ	206トン	88%	70%	9.8トン	88%	86%	▲
小型 底びき網	久手	ソウハチ、アナゴ・ハモ類	93トン	77%	61%	551kg	74%	85%	○
	和江	ソウハチ	206トン	80%	66%	618kg	70%	75%	▲
定置網 (大型)	浜田	マアジ	26トン	321%	223%	969kg	178%	212%	◎
	美保関	サワラ類、マアジ	90トン	74%	88%	970kg	82%	94%	○
	浦郷	ブリ	96トン	142%	191%	3.9トン	147%	195%	◎
釣り・縄	仁摩	ブリ、ヒラマサ、カサゴ・メバル類	5トン	55%	53%	18kg	54%	63%	▲
	大社	ブリ	42トン	177%	148%	60kg	132%	132%	◎
	西郷	スルメイカ、カサゴ・メバル類	9トン	177%	127%	33kg	118%	126%	◎

平年比：過去5年（沖底のみ10年）の平均値との比較 漁模様（CPUE）：◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下

本年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは全てを－、前年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは前年比を－、平年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは平年比を－とした

【ケンサキイカ情報】

発行日：平成27年6月16日

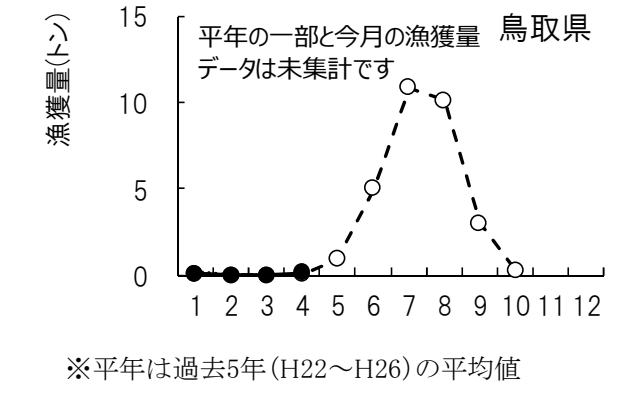
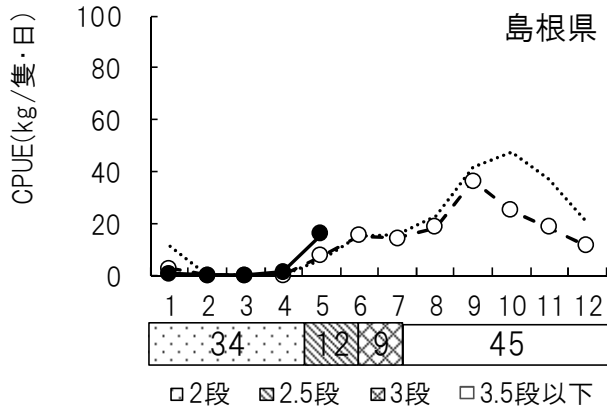
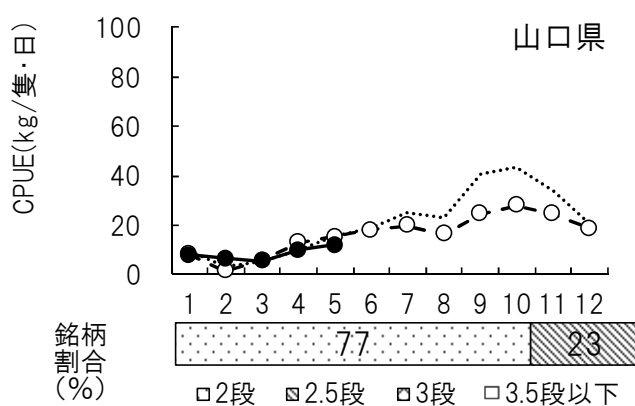
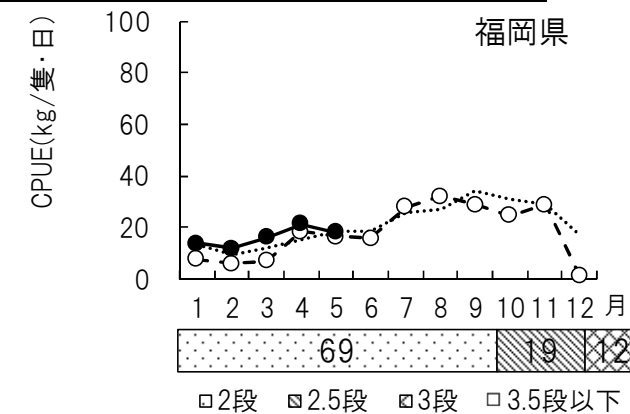
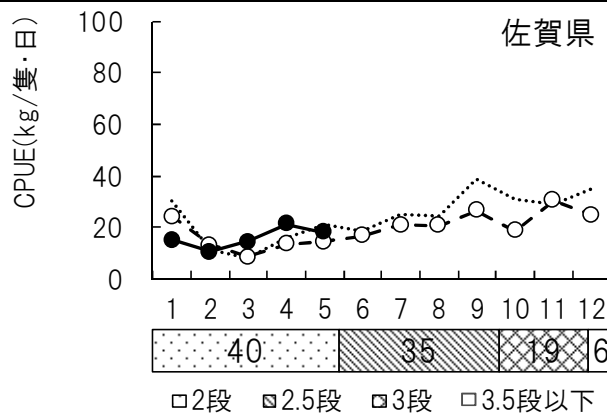
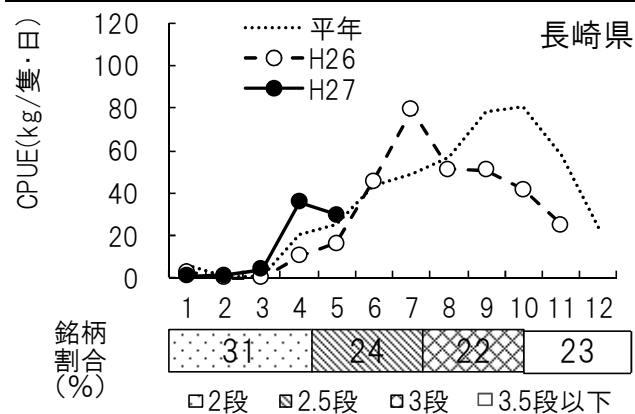
今月号から長崎県、佐賀県、福岡県、山口県、島根県、鳥取県の6県で共同発行しているケンサキイカ(地方名:マイカ、シロイカ)の情報(各地の漁況と底層水温)を再開します。

I：5月のイカ釣り漁況

これらの情報は各県の主要漁港データを利用しています。折れ線グラフは漁獲量もしくはCPUE、棒グラフは銘柄割合を示しています。

山口県を除く長崎県～島根県では平年並み～平年を上回る漁況でした。各県の状況は以下のとおりです。

長崎県	対馬標本漁協のケンサキイカ漁獲量は前年の3.9倍、平年の199%と大きく上回りました。	佐賀県	標本漁港の水揚げ量は、前年を上回り、平年並でした(前年比177%、平年比90%)。	福岡県	代表港の漁獲量は前年比138%、平年比121%とやや好調でした。
山口県	代表2港の漁獲量は前年並みで平年を大きく下回りました(前年比82%、平年比58%)。	島根県	主要7港のケンサキイカの水揚げ量は3トンでした(前年比82%、平年比204%)。	鳥取県	4月は県内の定置網でケンサキイカのみとまった漁獲がありました。5月分の漁獲量については集計中です。



Ⅱ：6月上旬の底層水温

長崎県	五島西海域の観測ができていません。	佐賀県	壱岐水道は18.6～19.2℃で平年並み～やや高め、対馬東水道は14.6～18.5℃で平年並みでした。	福岡県	沖合域の底層水温は、15～16℃台とやや低めから平年並みとなっています。
山口県	底層水温は冷水域を除き、14～18℃台でほぼ平年並みでした。	島根県	島根県沖の陸棚上の底層水温は、水深80～140mが9.2～17.5℃、それ以深が3.0～5.1℃でした。	鳥取県	水深100m前後の底層水温は15℃前後で、先月より約2℃上昇しました。

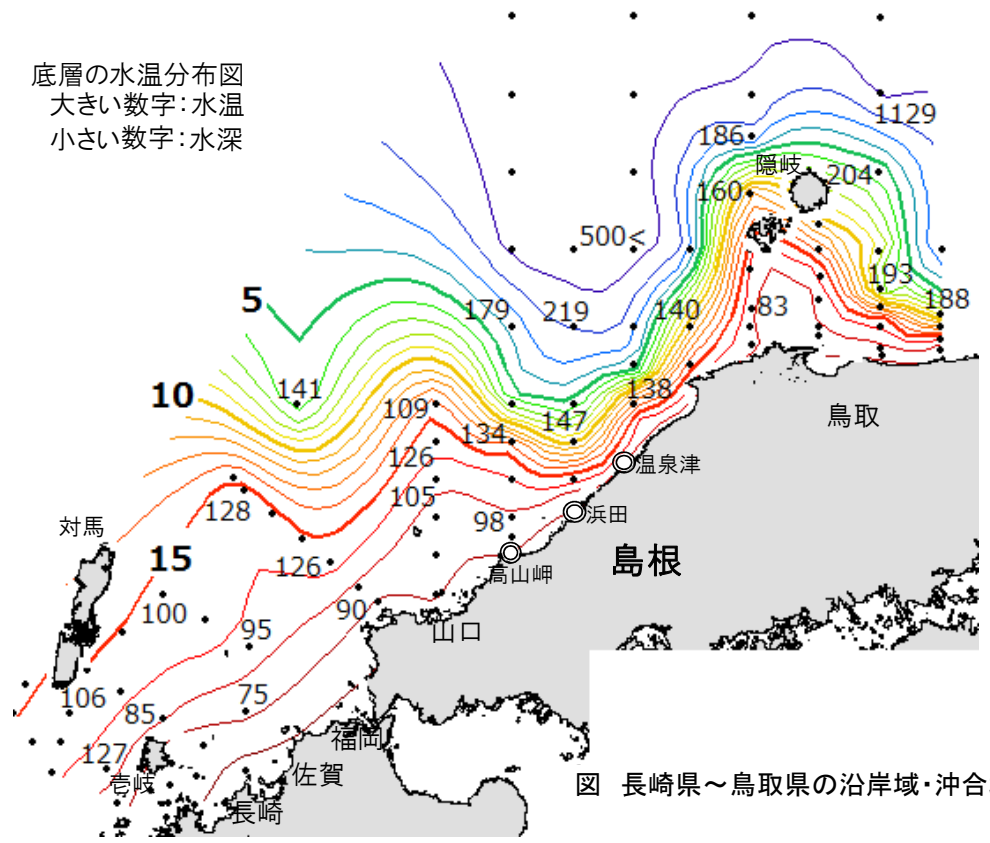


図 長崎県～鳥取県の沿岸域・沖合域における底層の水温分布図